

決して忘れられない記憶。

被災地で子どもと向き合う大人のためのセミナーを
宮城県と岩手県を中心に開催します。



心理社会的ケア 研修セミナー開催

震災後、心のケアの必要性が高まっています。『心理社会的ケア』とは、震災という忘れがたい記憶と“向き合い、表現して、心を整える”心のケアです。震災で受けた心の傷にフタをせず、心に抱える様々な思いを吐き出し、ゆっくりと震災に向き合えるよう促しながら心の整理をすることで、心の元気を獲得していきます。

『心理社会的ワークショップ』は“心的外傷後ストレス障がい(PTSD)”の予防的ケアにも位置付けられ、震災の記憶に捉われない未来を作るための取り組みで、本セミナーでは実際の活動内容を通してワークショップの内容をご紹介します。セミナーでは実際に行っているワークショップの一部を体験していただきながら進行いたします。

■ 岩手県陸前高田市
2013年11月5日(火)
まちづくり協働センター
会議室
(大隅つどいの丘商店街)
午後1:00~4:00

■ 名取市 2014年1月
(詳細は決まり次第HPに掲載予定)

対象: 学校教職員及び教育福祉関係者、
子ども支援に関わる方々
参加費: 2,000円 資機材費を含む
申込方法: 名前・所属(肩書き)・住所・電話番号・Eメール
アドレスを明記の上、FAXかEメールで送付
FAX: 022-383-8330
Email: stageone@e-stageone.org
※ お申込みは先着順となります
※ ご参加は1回限りとさせていただきます
※ 定員になり次第、締め切りとなります
お問合せ NPO法人地球のステージ事務局
(電話: 022-738-9221)
HPアドレス <http://e-stageone.org>

主催 特定非営利活動法人 地球のステージ
公益社団法人 日本国際民間協力会(NICCO)

講師紹介

宗貞 研(むねさだ けん)



神奈川県出身、看護師、心理カウンセラー
所属：公益社団法人 日本国際民間協力会(NICCO)

震災直後の2011年3月より宮城県名取市と岩手県陸前高田市において災害時緊急医療支援に従事。被災地での24時間診療や避難所での巡回診療などに加わる。2011年5月末からは名取市の現地NPO法人「地球のステージ」と共同実施で、津波で壊滅的な被害を受けた名取市閑上(ゆりあげ)地区、下増田地区の子どもたちの心のケアのため「スカイルーム」心理社会的ワークショップのファシリテーターとして、2013年4月まで従事。

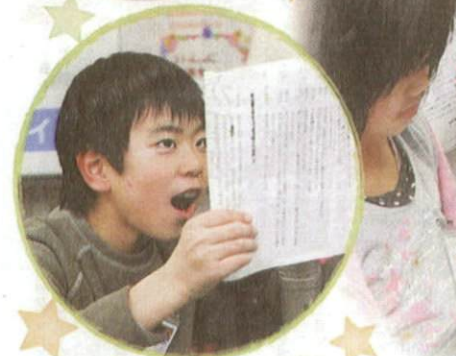
活動内容

スカイルーム

スカイルームとは、東日本大震災で被災した宮城県名取市の閑上・下増田地区の小学生児童を対象にPTSDの予防を目的とした「心理社会的ワークショップ(心のケア)」です。心療内科医が監修し実施した心のケアを、2011年6月から2013年4月まで約2年間実施して参りました。スカイルームでは「震災後の心の整理」を目指し、様々な遊びの要素を取り入れたワークショップを通して震災で受けた心の傷にフタをせず、ゆっくりと震災と向き合えるよう促しながら心の整理を進めました。心に抱える様々な思いを吐き出し、心の元気を獲得するための活動。



2013年3月10日
河北新報



名取市
スカイルーム

津波の体験

自分の言葉で伝えたい

セリフに
気持ちが
入っているね



ラジオでも
放送される
のね!



名取市にある愛鳥(めだしま)東部仮設住宅の集会所が、スタジオに早変わり。小学生13人がラジオ用のドラマを作ったのです。マイクに向かってセリフを話します。声だけの劇(げき)で、気をつけたのは「感情(かんじょう)を込めて、ゆっくり、はっきりと」。

集まったのは、今は仮設住宅などです。閑上(ゆりあげ)地区の子どもたち。毎週ここで開かれる活動「スカイルーム」の仲間です。閑上では、2011年3月11日の津波(つなみ)で家々が流され、約800人もの住民が犠牲(ぎせい)になりました。

スカイルームは地元「地球のステージ」、京都市の「ニココ」という団体が運営(うんえい)し、子どもたちが津波の前と後、未来(みらい)の町の模型(もけい)も

いや、映画を作ったりしてきました。

ラジオドラマは、「星に昇(のぼ)った少年」。1月から練習が始まりました。「地球のステージ」代表で医師の桑山紀彦(きひこ)さん(48)が、被災地(ひさいち)で聞いた話から台本を書きました。みんなが津波



の後、心やさしい子どもの「おぼけ」と出会い、ふれあっていく物語。

「校庭にいたとき津波がきて、急いで校舎の3階まで走ったんだ」「中学校の屋上から、閑上(の町)が流されるのをずっと見てた。こわかった」「お母さんとなかなか会えなくて泣(な)いたの」

ドラマには、こんな体験(たいけん)を自分の言葉で話すシーンがあります。つらくないの、と心配になりました。

「前は思い出しにくかったけど、今は話せる」と、閑上小から転校した船越小6年の玉田礼菜(れいな)さん(12)。「もしまた同じことが起きても、次はみんなが助かるように、あったことを伝(つた)えたい」

閑上小3年の伊藤留衣(るい)さん(9)は「家では津波のことを話しちゃいけないと思



ってがまんしてた。でも、スカイルームで友だちにたくさん話せて元気になったよ」

ニココのスタッフの心理カウンセラー、宗貞(むねさだ)研(けん)さん(35)は「気持ち(きもち)を表現(ひょうげん)し、だれかに見たり聞いたりしてもらって少しずつ楽になり、きっと乗り越えていける」と、みんなを見守っています。ラジオドラマは春休みごろ、なとり災害エフエム「なとり801」で放送されますよ。

みんなで作った
ラジオドラマを

心理社会的ケア研修セミナー参加申込用紙

(陸前高田市) 2013 年 11 月 5 日 (火) まちづくり協働センター会議室

※ 以下の必要事項をご記入いただき FAX または Email にてお申し込みください。

FAX : 022-383-8330 Email : stageone@e-stageone.org

(ふりがな) 氏名			
住所	〒		
所属・お肩書き			
Eメール アドレス			
電話番号		FAX 番号	
備考	※ご相談やご要望など自由記載です		

団体紹介

特定非営利活動法人 地球のステージ



地球のステージは、国際医療協力を中心に心のケアなどで活動する心療内科医・桑山紀彦が行う「紛争、貧困、災害地の子どもたちに音楽と映像で近づこう」と国際理解講座としてのコンサートステージを年間約 200 回全国で開催している団体です。これまで東ティモールやパレスチナ・ガザ地区での活動継続に加えて、今回の東日本大震災では自身が院長を務める「東北国際クリニック（現「東北国際医療会ゆりあげクリニック）」が被災し、その地域で唯一の医療機関として、24 時間診療や各避難所巡回医療支援を実施。震災直後から被災児童への心のケアや閉上中学校遺族会事務局、被災した中高年の女性たちへの心のケアとしての「閉上あみーず」、閉上の記憶プロジェクトなど、地元で被災者と共に歩む支援活動、心理社会的ケアを続けています。

所在地：〒981-1217 宮城県名取市美田園 7-17-3、2F

電話：022-738-9221 FAX: 022-383-8330 Email: stageone@e-stageone.org

URL: <http://e-stageone.org/>

公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO/ニッコー)



公益社団法人 日本国際民間協力会

1979 年設立以来、途上国の人々の経済的・精神的な自立を図るため、環境保全型農業に基づく農村開発、職業訓練、緊急災害支援等の分野でアジア、中東、アフリカの各国で活動を展開。緊急支援事業では、1995 年の阪神淡路大震災でボランティアとして活動したほか、2008 年にはミャンマーサイクロンと中国四川地震、2009 年にはガザ人道危機とスマトラ島地震、2010 年にはハイチ地震やパキスタン水害の被災者に対して、医療、物資配付、学校再建、心理社会的ケア、住宅再建支援を行いました。2011 年に発生した東日本大震災への支援では、岩手県陸前高田市と宮城県気仙沼市、名取市を中心に、心のケア、子どもの夢応援団プロジェクト、東北の名産品づくりによる経済復興支援、農業復興支援、ボランティア派遣等を実施しています。

NICCO 京都本部

〒604-8217 京都市中京区六角通新町西入西六角町 101

電話：075-241-0681 FAX: 075-241-0682 Email: info@kyoto-nicco.org

URL: <http://www.kyoto-nicco.org>

NICCO 名取事務所

〒981-1217 宮城県名取市美田園 7-17-3、2F

電話：022-738-9221 FAX: 022-383-8330 Email: munesada@kyoto-nicco.org, kuwajima@kyoto-nicco.org